

[成果情報名]春期のハウレンソウケナガコナダニに対するフルフェノクスロン乳剤の1回散布時期

[要約]ハウレンソウケナガコナダニに対するフルフェノクスロン乳剤の防除時期は、本葉2葉期散布と本葉4葉期散布とされるが、1回散布の最も有効な散布時期は本葉2葉期である。

[キーワード]ハウレンソウ、ハウレンソウケナガコナダニ、防除時期、フルフェノクスロン

[担当]広島総研・農技セ・生産環境研究部

[代表連絡先]電話 082-429-2590

[区分]近畿中国四国農業・生産環境（病虫害）

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

春期や秋期に栽培するハウレンソウ産地でハウレンソウケナガコナダニが発生し、品質・収量の低下が問題となっている。本種の防除時期は本葉2葉期から4葉期とされ、この時期の2回散布が慣行となっている。近年、新たに登録されたフルフェノクスロン乳剤は他の防除薬剤と比較しても、本種に対して1回散布でも卓効を示し、広島県内の本種による被害は減少している（星野ら、2009）。しかし、散布時期の違いによって被害が発生する事例がある。そこで、本種に対するフルフェノクスロン乳剤の散布時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 2葉期散布区では、ハウレンソウ株上のケナガコナダニ類個体数は収穫期に減少する。2葉期散布区は4葉期散布区よりもハウレンソウ株上のケナガコナダニ類密度は低く推移する（表1）。
2. 土壌中のケナガコナダニ類の個体数は、収穫期までの期間、2葉期散布区と4葉期散布区とも有意な差は認められない（表2）。
3. 2葉期散布区の収穫期におけるハウレンソウケナガコナダニ被害度は4葉期散布区の収穫期よりも低く、被害株率も低い（表3）。
4. 2葉期散布区のハウレンソウの可販株率は4葉期散布区よりも高い（表3）。
5. 以上のことから、春期のハウレンソウケナガコナダニ防除のためのフルフェノクスロン乳剤の1回散布はハウレンソウ本葉2葉期が適している。

[成果の活用面・留意点]

1. 冬期などの低温期にハウレンソウを栽培する場合、栽培期間が長くなり、栽培期間の後半に本種の密度が高くなる場合があるので、本種の発生に注意し追加防除を行う。

[具体的データ]

表1 フルフェノクスロン乳剤のハウレンソウ本葉2葉期および本葉4葉期散布によるハウレンソウのケナガコナダニ類密度に対する影響

	ハウレンソウ株上のケナガコナダニ類密度 (頭/株)		
	本葉2葉期	本葉4葉期	収穫期
	3月24日	4月8日	4月19日
2葉期散布区	0.4±0.2 a	10.0±0.3 a	2.3±1.0 a
4葉期散布区	0.3±0.1 a	14.9±0.3 b	14.4±3.2 b

1) 数値は平均±標準偏差

2) 異なる英小文字はt検定5%水準で有意差あり。

3) 試験方法

試験時期：2010年3月24日～4月19日

試験場所：三次市三和町ハウレンソウ栽培農家ハウス、区制・面積：1区4.5m² 3連制

フルフェノクスロン乳剤4000倍150リットル/10a相当量を試験区全体がの土壤が濡れるくらい散布する。

散布時期：展開した本葉の枚数により決定 本葉2葉期散布(2葉期散布区)、本葉4葉期散布(4葉期散布区)

調査方法：1連10株のハウレンソウを採集し、70%エタノールで洗浄してケナガコナダニ類を分離して計数。

表2 フルフェノクスロン乳剤のハウレンソウ本葉2葉期および本葉4葉期散布による土壤中のケナガコナダニ類密度に対する影響

	土壤中のケナガコナダニ類密度 (頭/生土100cm ³)		
	本葉2葉期	本葉4葉期	収穫期
	3月24日	4月8日	4月19日
2葉期散布区	82.7±18.3 a	102.7±10.5 a	32.0±13.3 a
4葉期散布区	82.7±21.5 a	139.0±32.5 a	64.5±13.2 a

1) 数値は平均±標準偏差

2) 異なる英小文字はt検定5%水準で有意差あり。

3) 調査方法：土壌1連につき5ヵ所、1ヵ所100cm³の土壌を採土管で採集して混和し、ツルグレン法(土壌100cm³、3反復、72時間)で土壌中のケナガコナダニ類を分離し、実体顕微鏡下で計数。

表3 フルフェノクスロン乳剤のハウレンソウ本葉2葉期および本葉4葉期散布によるハウレンソウケナガコナダニ被害度に対する影響

	ハウレンソウ被害度			
	本葉4葉期	収穫期	被害株率	可販株率
	4月8日	4月19日	(%)	(%)
2葉期散布区	0.4±0.4 a	2.6±1.7 a	12.7±8.2 a	97.3±1.9 a
4葉期散布区	1.2±0.4 a	15.4±3.9 b	47.3±8.4 b	78.7±6.2 b

1) 数値は平均±標準偏差

2) 異なる英小文字はt検定5%水準で有意差あり(被害度、可販果率はアークサイン変換後t検定)。

3) 調査方法：1連当たりハウレンソウ50株について、ハウレンソウケナガコナダニ被害度(松村ら、2005)を調査。

(星野 滋)

[その他]

研究課題名：ハウレンソウの難防除害虫ハウレンソウケナガコナダニ総合防除法の開発

予算区分：県単

研究期間：2008年度～2010年度

研究担当者：星野 滋